

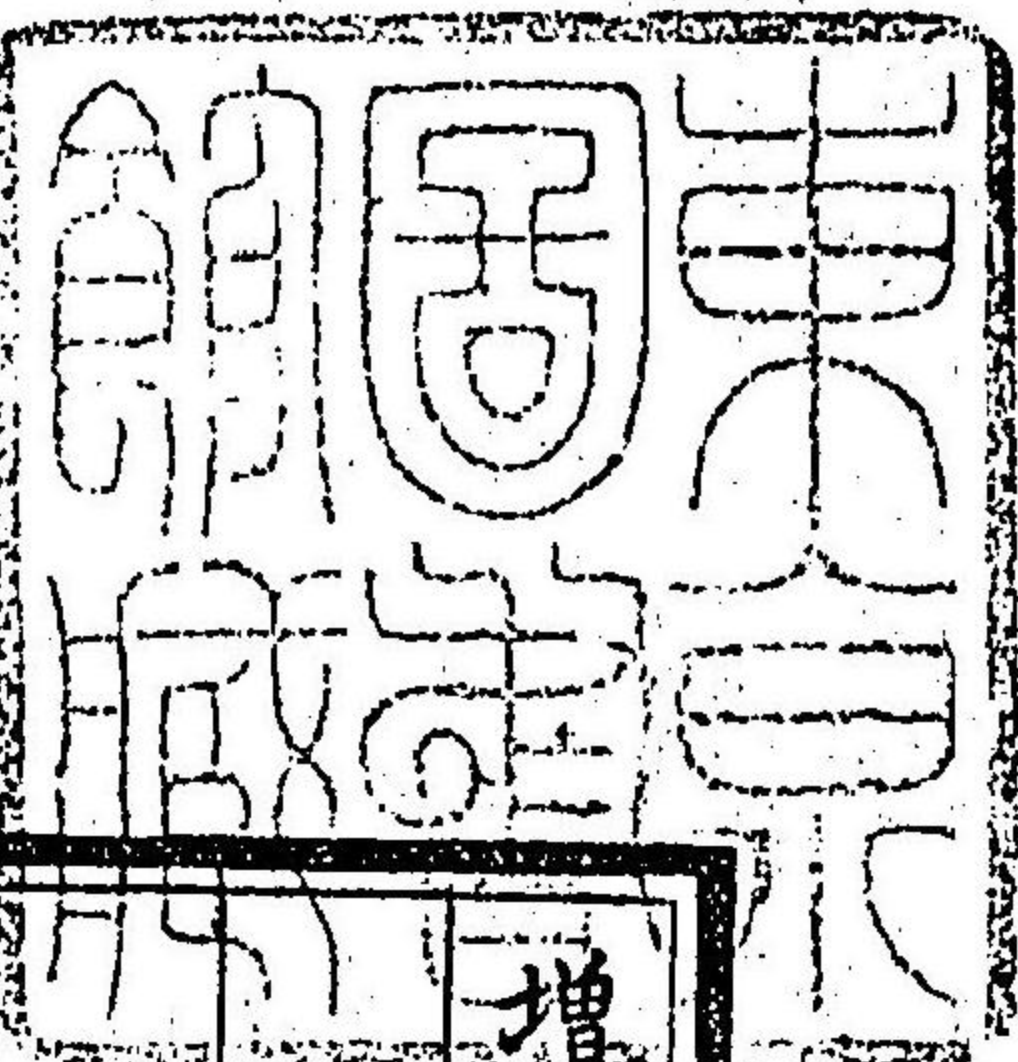
補增  
藥物學

三瀨諸君翻譯  
高橋正純增補

十五

4  
88

東泉圖書館				
二 〇 冊	八 八 号	三 架	四 函	類



增補藥物學卷十五目錄

下藥

緩下藥

白芥子

生水銀

砂糖

滿那

阿沒勒

硫黃

炭酸麻屈涅失亞

燬製麻屈涅失亞

強下藥

蓖麻子油

阿列布油

甘扁桃油

大黃

蘆薈

旃那

葯刺巴

刺蒿比儂謨

硫酸麻屈涅失亞

即利濕

拘橐酸麻屈涅失亞

硫酸曹達

即芒硝

硫酸加里

即孕礬

酒石酸加里

重酒石酸加里

即石英

酒石酸加里曹達

即孕礬

磷酸曹達

甘汞

峻下藥

蘓甘沒紐謨

格碌莖蒿

蒲里阿尼亞

黑藜蘆

藤黃

越刺的倭謨

巴豆油

附

灌腸法

增補藥物學卷十五目錄終

卷之十五目錄

二

增補藥物學卷十五

和蘭越爾茂噠斯著

三瀨諸胤翻譯  
高橋正純增補

下藥

下藥ハ即チ大便ノ排泄ヲ促スノ効アル者  
ヲ謂フ其作用數般ニヌ或ハ腸ノ蠕動機ヲ  
亢進スルニ由ル者アリ蓋シ尋常ノ食品ト  
雖凡腸管ノ壁ニ觸ル、キハ其筋層収縮シ  
テ蠕動機ヲ催起シ漸次ニ其食物ヲ轉下ス  
ル者ナレ凡此類ノ下藥ヲ用ルキハ其蠕動

機常ヨリモ増進シ、自ラ通利ヲ促スノ効アルナリ、或ハ腸液ノ分泌ヲ増盛スルニ由ル者アリ、此ニ属スル者ハ、大抵皆ナ水様ノ下利ヲ起スカ故ニ、水瀉下藥ノ名アリ、若シ過度ニ妄用スレハ、所謂人工虎狼劑ヲ設シ、危険ノ大虚脱ヲ来ス<sup>レ</sup>アリ、或ハ胆汁ノ分泌ヲ奨進スルニ由ル者アリ、水銀劑ノ如キ是レナリ、凡ソ下藥ハ、腸ノ全部ニ効ヲ致ス者ニ非ラス、<sup>レ</sup>ハ藤黄ハ、特ニ腸ノ上部ニ効ヲ致シ、<sup>レ</sup>此藥ヲ用テ、惡心嘔吐ヲ発スル蘆薈<sup>ヲ</sup>所以ハ、蓋シ此カ為ナリ、蘆薈

ハ、殊ニ大腸ニ効ヲ致シ、蓖麻子油及ヒ中和塩類ハ、專ラ小腸ニ効ヲ致スカ如シ、故ニ其通泄スル所ノ大便モ亦自ラ異同アリ、<sup>レ</sup>ハ蘆薈ノ如キ、大腸ニ効ヲ致ス者ヲ用レハ、尋常ノ便ヲ通シ、蓖麻子油ノ如キ、小腸ニ効ヲ致ス者ヲ用レハ、軟便ヲ通シ、水銀ノ如キ、肝藏ニ効ヲ致ス者ヲ用レハ、其大便必<sup>ニ</sup>多量ノ胆汁ヲ混出スルカ如シ、通常其効ノ強弱ニ從テ之ヲ三種ニ區別ス、緩下藥、強下藥、峻下藥是レナリ、就中強下藥ハ、腸ノ筋管ヲ

収縮セシムルノ性アルヲ以テ之ヲ用レハ、  
腹痛ヲ發スルヲ屢之アリ、

醫治効用 下藥ヲ用ルノ標的數般アリ、即

チ單ニ腸ヲ疎滌スル為ニ用ルヲアリ、  
ハ便秘ニ於ケルカ如シ、便秘ハ世間最ニ多  
キ症ニメ、胃弱家ノ如キハ、之ヲ患ヘサル者  
幾ント希レナリ又下腹充血ノ諸症ハ、便秘  
及ヒ痔疾ヲ發スル者多シ、其痔疾ヲ發スル  
所ハ大便ノ鬱積シテ直腸ヲ壓迫スルニ  
由ルナリ、又便秘ハ腸ヲ侵スルヲキ諸般ノ

炎証及ヒ熱病ニ併發スルヲ多シ、  
肺炎、腦炎及ヒ窒扶斯ノ初起ニ於ケルカ如シ、  
尋常此等ノ症ニ於テ、便秘ヲ兼ルルハ、  
充血ヲ起シ、大ニ不快ヲ覺ル者トス、  
又便秘ハ妊婦ノ通患タリ、是レ其子宮膨大シテ、  
腸ヲ壓迫スルニ由ルナリ、時トメハ、便秘ノ為  
ニ腸ノ潰瘍ヲ發スルヲアリ、殊ニ盲腸ニ發  
スルヲ多シ、或ハ其壓迫ニ由テ、直腸ノ周圍  
ニ於ケル、結締織中ニ腫瘍ヲ生シ、漸ク潰瘍  
ニ變シテ、荏苒治セズ、遂ニ腹膜炎ヲ發シテ

斃ル、者アリ、或ハ瘻管ヲ生シテ、大便ヲ漏  
出シ、所謂大便瘻ト為ル者アリ、而メ其便秘  
最モ甚シキハ、腹内ニ一個ノ大塊ヲ生シ、  
恰カモ腫瘍状ヲ呈スルコトアリ、以上ノ諸症  
ハ下薬ヲ以テ尤モ須要トス、宜シク應當ノ  
品ヲ撰用スヘシ、又下薬ハ、腹内ノ壅塞ヲ疏  
通シ、血行ヲ整頓スルノ効アリ故ニ下腹充  
血ノ諸症ニ於テハ、之ヲ以テ必需ノ要薬ト  
ス、或ハ膽汁ノ分泌ヲ進ムル為ニ用ヒ、或ハ  
滲出物ノ吸収ヲ促ス為ニ用テ、並ニ良驗アリ

一、其他誘導薬トメ用ルコトアリ、  
諸患ニ於ケルカ如シ、或ハ腸内ノ害物ヲ驅  
除スル為ニ用ルコトアリ、  
テ用ルカ如シ、  
ハ中毒症ニ於

緩下薬

白芥子 シナピス、アルバ、旬

白芥子ノ實體ヲ用レハ、緩下ノ功アリ、尋常此薬  
二茶匙ニ温湯ヲ洒キ、攪和シテ軟解シ用フ、但シ  
歐羅巴ニ於テハ、殆ント用ヒス、唯亞米利加ニ於  
テ用ルコトアルノミ、

生水銀

ヒドラルヂム、旬

生水銀ハ箱頓腸墜ノ症ニ於テ用ル<sub>ル</sub>アリ、是レ其重カチ以テ大便ヲ壓下シ、腸位ヲ整復スルノ効アレハナリ、毎服一匁乃至一匕、但シ此法ハ百

方驗ナキ者ニ於テ施スヘキノミ、水銀劑ノ条ヲ参考スヘシ

砂糖

モラセス、旬

砂糖モ亦緩下薬ニ属ス、尋常茶褐色ノ品ヲ撰用ス、<sub>ル</sub>小兒ノ下薬ヲ服スル<sub>ル</sub>チ肯ンセサル者ニハ、之ヲ與テ可ナリ、<sub>ル</sub>凡テ果物ノ糖及ヒ酸ヲ含ヌル者即チ梨、桃、林檍、葡萄、巴且杏ノ類ハ、皆チ

緩下ノ効アリ、尋常其未タ熟セサル者ハ、酸ヲ含ム<sub>ル</sub>チ多ク、既チ熟セル者ハ、糖ヲ含ム<sub>ル</sub>チ多シ、是レ其酸漸ク化シテ糖ト為ル故ナリ、但シ其効ハ甚タ確ナラス、下泄ヲ起スアリ、否ラサルアリ、其下泄ヲ起ス所以ハ、恐クハ腸内ニ寒冷ヲ生スルニ由ル者ナラン、

滿那

マンナ、旬

滿那ハ一種植物性ノ凝液ニメ、多ク伊太里亞及西細里亞ニ産ス、其成分ノ最タル者ハ滿那糖ナリ、小兒ノ便秘ニ用テ緩下ノ効アリ、多クハ麻樞



涅夫亞ニ伍用ス、大人ニ於テハ、旃那ニ伍用スルヲ良トス、小児ニハ每服一二子、大人ニハ每服一子、尋常温湯ニ蘸シ、軟柔ト為シ用フ、又小児ニ於テ、之ニ苗香水ニ和服セシムルキハ、兼テ驅風ノ効ヲ奏スルカ故ニ最モ良ナリ、

阿没勒

カ、スシア、リスチラ、甸

阿没勒ハ、一種ノ果類ニシテ、佳快ノ酸味ヲ有シ、甚々服用シ易シ、少量即チ二子乃至半子ヲ用レハ、緩下藥ト為リ、大量即チ二子ヲ用レハ、強下藥ト為リ、屢腹痛ヲ起スニアリ、多クハ答麻林度、梅肉、

旃那、滿那等ヲ和シ、舐劑ト為シ用フ、和蘭ニ於テハ、便秘ノ家貯藥トメ用ル者多シ、

硫黃

シ、ル、フル、甸

硫黃ハ腸ノ下部ニ功ヲ奏シ、腹痛ヲ起ス一少キヲ以テ、緩下藥中ノ尤モ稱用スヘキ者トス、然レニ頑固ノ便秘ニハ、之ヲ用ルモ効ナシ、用法每服半子乃至一子、臨卧ニ頓服セシムヘシ、或ハ大黃、瀉利塩、芒硝ノ類ヲ加ヘ、散若クハ舐劑ト為シ用ルモ可ナリ、  
變、煎、藥ノ、茶ヲ、参考スヘシ

炭酸麻屈涅夫亞

マグネシイ、カルボナス、甸

有力ノ制酸藥ニメ、緩下ノ効ヲ兼攝ス、故ニ胃弱  
家ノ便秘ニ稱用ス、但シ此藥ハ、其容大ナルヲ以  
テ、炭酸曹達ヲ伍スルヲ妙トス、之ヲ用レハ、其炭  
酸胃中ニ於テ游離スルカ故ニ、數回ノ噯氣ヲ發  
スルコトアリ、用法大人ニハ、每服一二子、三四歳ノ  
児ニハ、每服一又、嬰兒ニハ、每服五又乃至十八、尋  
常少許ノ水ヲ和シ用フ、但シ小児ニ於テハ、舍利  
別若クハ、苗香水ニ和服セシムルヲ良トス、若シ  
其効ヲ強クセント欲セハ、大黃ヲ加フヘシ、

煨製麻偃涅失亞

マグ子シア、甸

炭酸麻偃涅失亞ヲ烈火ニ上シ、全ク其炭酸及ヒ  
水分ヲ除ク者是レナリ、此品モ亦緩下制酸ノ効  
アルコト前品ニ異ナラス、故ニ胃弱家ノ便秘ニ用  
ルコト多シ、又酸敗液ニ因スル嘔吐ニ用テ良効アリ、  
但シ大人ニハ、之ヲ用ルモ十分ノ通利ヲ取ル  
ニ足ラス、故ニ多クハ小児ニ用フ、用法分量共ニ  
炭酸麻偃涅失亞ニ全シ、

強下藥

蓖麻子油

カレユム、リシニ、甸

蓖麻子ヲ絞搾シテ、獲ル所ノ固性油ニシテ、微ニ黃

色ヲ帶ヒ味稍辛辣ナリ、内用スレハ、時有テ惡心  
ヲ發スルコトアレド、腹痛ヲ發スルコト殆ント罕レ  
ナリ、通常之ヲ用レハ、三時ヲ経テ下ヲ得ル者アリ  
、或ハ尚數時ヲ経テ下ヲ得ル者アリ、而メ此油  
ハ、血中ニ吸収セラレ、コトナク、盡ク大便中ニ混  
出シ、且ツ腸ノ分泌ヲ増進スルコトナク、唯蠕動機  
ヲ亢盛シテ、其功ヲ致スカ故ニ之ヲ用レハ必ス  
軟滑ノ便ヲ通シ、水瀉ヲ起スコトナシ、又此藥ノ作  
用ハ、各人ニ於テ全シカラス、或ハ服後直ニ吐ヲ  
起ス者アリ、或ハ數回用ルモ吐ヲ起リ、ル者アリ

リ、但シ小兒ハ太抵其服用ニ堪ヘ易キ者ナリ、  
主治及用法 蓖麻子油ハ、其性緩ニメ、其功偉ナ  
リ、故ニ下藥中ノ最モ稱用スヘキ者トス、然レド  
頑固ノ便秘ニハ、之ヲ用ルモ多クハ功ナシ、又下  
藥ヲ連用スヘキ症ニハ、之ヲ用ルヲ不適トス、是  
レ數回反覆スレハ、必ス胃ヲ害シテ惡心ヲ發ス  
レハナリ、但シ臨時ニ下藥ヲ要スル片ハ、通シテ  
之ヲ用フヘシ、又腸ノ諸患即チ腸潰瘍、腸室扶斯、  
腸痙攣等或ハ腹膜炎及ヒ痔熱ニ於テ下藥ヲ要  
スル片ハ、之ヲ用ルヲ最モ妙トス、但シ此藥ヲ以

テ必須ト為スヘキ症ハ、痢疾是レナリ日本ニ於  
テ流行スルカ如キ慢性症ニ於テハ、殊ニ良驗ア  
リ、蓋シ痢疾ハ、大抵小腸ノ下部及ヒ盲腸ニ潰瘍  
ヲ生シ、腸液絶ヘス其面ヲ刺戟シテ、大ニ治癒ヲ  
妨クル者ナリ、故ニ蓖麻子油ヲ用テ、腸内ニ鬱滯  
セル粘稠液ヲ淨除シ、且ツ其粘滑性ヲ以テ潰瘍  
面ヲ包攝セシムルキハ大ニ其治ヲ促スノ効ア  
リ、故ニ此症ニハ、兼テ下泄ノ効ナキ油乳劑ヲ與  
ヘ、愈潰瘍面ヲ包攝スルキハ愈妙ナリ、但シ印度  
地方ニ於テ流行スルカ如キ、急劇ノ痢疾ニハ、蓖

麻子油ヲ用ルモ効ナシ、是レ其潰瘍速ニ壞疽ニ  
陥ルヲ以テナリ、唯其初起ニ於テ用ルルキハ、又此油ハ、  
ハ、小兒ニ用ル最良ノ下藥トス、是レ小兒ニ於テ  
ハ、惡心ヲ發スルヲ少ナキ故ナリ、  
初生兒ニ於テハ、  
國ニ於テハ、初生兒ニ於テハ、  
ニ用ルルト一般ナリ、其他驅蟲藥ノ佐藥トシ、  
蠅虫ニ用ルルト多シ、大人ニ用ルニハ、半沔乃至一沔ヲ  
常量トス、症ニ隨ヒ、日ニ一二回與フヘシ、又三四  
歳ノ兒ニハ、毎服一二沔、日ニ一兩次、初生兒ニハ  
毎服五滴乃至十滴ニテ足レリ、此油ハ單用スル  
ヲ最モ可トス、若シ稠厚ト為リ、服用シ難キハ

微熱ヲ與テ溶流セシムヘシ、但シ之ヲ單用スル  
ト韃ハサル者ニハ、少量ノ香竄水ニ和服セシム  
ヘシ、喻ヘハ蓖麻子油半汚ニ全量ノ薄荷水ヲ加  
ヘ用ルカ如シ、或ハ一椀ノ温骨喜ニ浮ヘ用ルモ  
可ナリ、又苦扁桃油ヲ和スルキハ、全ク其臭味ヲ  
消スルカ故ニ、殊ニ服用シ易シ、即チ蓖麻子油一  
汚ニ苦扁桃油一滴ヲ和シ用フ、此用法ハ晩近ノ  
發明ニ出ツル者  
ナリ、然レモ苦扁桃油ハ劇毒アルヲ  
以テ、注意シテ用ヒサレハ害アリ、  
或温日本酒  
車釐酒等ニ和服セシムルモ良ナリ、又「カプシユ」  
ルニ入ル、者ハ、服用ニ便ナリ、但シ新製ノ品ヲ

換用スヘシ、其他乳劑ト為シ用ルコトアリ、其方蓖  
麻子油一汚、護膜ニク、砂糖半ク薄荷水四汚ヲ和  
ス此劑ハ殊ニ服用シ易シ、

阿列布油 オレユム、オリゾール、旬

此油モ亦緩下ノ効アリ、歐羅巴ノ倍間ニ於テハ、  
緩和藥トメ、疝痛、下利ニ稱用ス、或ハ稀レニ下劑  
トメ用ルコトアリ、但シ蓖麻子油ノ二倍或ハ三倍  
ヲ用ヒサレハ効ナシ、

甘扁桃油 オレユム、リニ旬

阿列布油ト略全効ナリ、故ニ緩和藥トメ、腹痛等

ニ用ルコト多シ、或ハ單用シ、或ハ油乳劑トシ用フ、  
 大抵半汚乃至一汚ヲ以テ一日ノ量ト為ス、或ハ  
 尚增量スルモ害ナシ、又扁桃乳ヲ代用スルコト  
 アリ、其方甘扁桃搗碎者護膜ニク水ハ汚ヲ和シ、調  
 味ノ為ニ老利兒水若クハ砂糖適宜ヲ加フ、此乳  
 劑ハ殊ニ産婦ノ腹痛或ハ咳嗽ヲ鎮止スル為ニ  
 用テ良功アリ、

大黄 レユム、旬

大黄ハ亞細亞洲殊ニ支那ニ産スル者多シ、二種  
 アリ、一ヲ支那大黄トシ、一ヲ魯西亞大黄トス、二

種共ニ支那ヨリ出ツ、而メ魯西亞大黄ヲ最ヒノ  
 品ト為ス、少量ニ用レハ、保固藥ト為テ、食思ヲ進  
 メ、消化ヲ促スノ効アリ、且ツ此藥ハ収斂性ヲ有  
 スルヲ以テ、便秘ヲ起スト屢之アリ、稍多量ニ用  
 レハ乃チ下藥ト為ル、但シ水瀉ヲ起スト稀レニ  
 メ多クハ黄色ノ滑便ヲ通ス、是レ其腸液ノ分泌  
 ナ増スト少ナク、專テ蠕動機ヲ亢進スルニ由ル  
 ナリ、又之ヲ用レハ、腹痛ヲ發シ、且ツ下ヲ得ルノ  
 後便秘スル者多シ、

主治及用法 胃弱ノ便秘ヲ兼ル者ニハ之ヲ用

テ最モ良効アリ、殊ニ麻屈涅失亜ニ伍用スルヲ  
 妙トス、又頑固ノ便秘ニハ、蘆薈ヲ伍シ用フヘシ、  
 但シ大黃ヲ連用スルキハ、漸ク之ニ慣習シテ効  
 ヲ見サルニ至ルカ故ニ、逐次ニ増量セサルヘカ  
 ラス、又單純ノ便秘ニハ、通シテ之ヲ用フヘシ即  
 チ臨卧ニ之ヲ用レハ、翌早必ス適宜ノ通下ヲ得  
 ヘシ、又此藥ハ保固収斂ノ効アルヲ以テ下利及  
 ヒ赤痢ニ用ルヲアリ、殊ニ小児ノ下利ニ於テハ、  
 之ヲ麻屈涅失亜ニ伍用シテ偉驗アリ、服量ハ各  
 人ニ於テ大ニ差異アリ、或ハ五匁ヲ用テ十分ノ

通下ヲ得ル者アリ、或ハ半匁ヲ用ヒサレハ、効ナ  
 キ者アリ、然レモ大抵十匁ヲ用レハ、適宜ノ通利  
 ヲ得ヘシ、若シ強下ノ効ヲ要スルキハ、一月乃至  
 半匁ヲ用フヘシ、小児ニハ每服一匁、日ニ三四回  
 殊ニ麻屈涅失亜ヲ伍シ、散トメ用ルト多シ、但シ  
 此藥ハ其味不佳ナルヲ以テ、大人ニ於テハ、丸ト  
 為シ用ルヲ最モ便トス、即チ大黃三分、綠石鹼一分  
 分ヲ和メ丸ト為シ、一丸中ニ大黃三匁ヲ含マシ  
 ムヘシ、此丸ハ久シク收貯スルモ、變惡スルヲ  
 ナキヲ以テ、日常尤モ稱用スル所ナリ、又  
 頑固ノ便秘ニ於テハ、此丸料中ニ蘆薈ヲ加ヘ、所

謂複方大黃丸トシ用ルヲ可トス、其他浸劑トシ用ルニハ、二乃ヲ浸シテ六乃ノ液ヲ取リ每服二食匙ヲ與フヘシ、

大黃丁幾 大黃ニ益智、橙皮ノ類ヲ加ヘ、並尔箇

児ニ浸出スル者是レナリ、此劑ハ消化機ヲ健運

シ、兼テ緩下驅風ノ功ヲ奏ス、故ニ胃弱症ニ用テ

良ナリ、大人ニハ每服二十滴乃至半乃、小児ニハ

每服十滴、日ニ數回與フヘシ、

大黃舍利別 下藥トメ小児ニ用ルト多シ、每服

二十滴乃至半乃、一日數回、或児ニ於テハ、一乃乃

至二乃ヲ要スルトアリ、大人ニハ用ルト少シ、

香竄大黃舍利別 大黃ニ肉豆蔻、桂皮、丁香等ヲ

加ヘテ製スル者ナリ、殊ニ保固藥トメ、小児下利

ニ用ルト多シ、每服一茶匙、日ニ數次、或ハ少量ノ

麻愷涅失亞ヲ加ヘ用フ、

大黃越幾斯 每服十乃乃至一乃、但レ用ルト稀

レナリ、

蘆薈 アロエ、旬

熱帶地方ニ産スル一種ノ宿根草葉ヨリ取レル

凝液ナリ、亞弗利加ニ産スル者ヲ上品トス、此藥



ハ不佳ノ苦味ヲ有シ、少量ニ用レハ、胃ヲ刺戟メ、  
 消化機ヲ旺盛シ多量ニ用レハ、乃チ下藥ト爲ル、  
 而メ其効ヲ現ハスハ、大抵用後六時ニ在リ、但シ  
 水瀉ヲ起スナキメ、胆汁色ノ軟便ヲ通ス、又之  
 ヲ直腸ニ注入シ、或ハ表皮剝脱部ニ貼スルモ、六  
 時ヲ經ルノ後其効ヲ現ハス、猶内用ニ於ケル  
 カ如シ、故ニ此藥ハ、腸粘膜ニ直達セスメ血中ニ  
 吸収セラル、ノ後其功ヲ致ス者タルヲ明カナ  
 リ、

主治及用法

總テ虚弱家ノ便秘ニ於テ、他ノ下

藥ヲ用レハ、胃腸ノ衰弱ヲ將來スヘキ恐レアル  
 片ハ、之ヲ用テ良ナリ、蓋シ此藥ハ、兼テ胆汁ノ分  
 泌ヲ増進シ、食思ヲ進メ、消化ヲ促カスノ効アレ  
 ハナリ、加之多日連用スルモ、絶テ胃腸ノ官能ヲ  
 障碍スルコトナキヲ以テ、常習便秘ニ用テ尤モ適  
 當トス、喻ハ、下腹充血症ニ於ケルカ如シ、就中  
 痔疾ニ於テハ、一般ニ稱用スル所ナリ、其他胃弱  
 及ヒ黃疸ノ便秘ヲ兼ル者ニハ、之ヲ用ルヲ最モ  
 妙トス、又通經藥トメ、月經不調ノ症ニ用ルヲ多  
 シ、若シ妊婦ニ於テ、此藥ヲ妄投スルキハ、往々流

産ヲ致ス<sub>1</sub>アリ、是レ其子宮ニ充血ヲ起シ諸生  
 殖器ノ運動ヲ亢進スル故ナリ、又他ノ下藥ノ功  
 カヲ補フ為ニ之ヲ配用スル<sub>1</sub>多シ、用法緩下ノ  
 効ヲ要スルキハ、二<sub>1</sub>乃至六<sub>1</sub>、強下ノ効ヲ要ス  
 ル<sub>1</sub>ハ十<sub>1</sub>乃至一<sub>1</sub>、殊ニ石鹼等分ヲ加ヘ丸ト  
 為シ用ル<sub>1</sub>妙トス、又大黄ヲ伍スル<sub>1</sub>多シ、和蘭  
 ニ於テハ、尋常蘆薈、大黄各等分ニ舍利別適宜ヲ  
 加テ丸ト為シ、一丸中ニ蘆薈、大黄各二<sub>1</sub>ヲ含マ  
 シメ、臨卧ニ五六丸ヲ與フ、又症ニ隨ヒ、苦味藥即  
 チ健貞亞那等ヲ加ヘ、或ハ鐵劑即チ硫酸鐵等ヲ

加ヘ用ル<sub>1</sub>アリ、又便秘ニ風氣痞滯ヲ兼ル<sub>1</sub>症ニ  
 ハ、蘆薈、阿魏各等分ヲ丸ト為シ用テ最モ良驗ナ  
 リ、又ル<sub>1</sub>ス、氏複方蘆薈丸ト名クル者アリ、其方  
 蘆薈 二分 沒藥 一分 泊夫蘭 半分 舍利別 二分半  
 丸ト為シ、一丸中ニ蘆薈二<sub>1</sub>ヲ含マシム、又複方  
 蘆薈煎ト名クル者アリ、其方蘆薈、沒藥、泊夫蘭、炭  
 酸加里 各一<sub>1</sub>、甘草 半<sub>1</sub>、右煎出スル<sub>1</sub>三時間ニ  
 ノ十二<sub>1</sub>、液ヲ取り、毎服一食匙、日ニ數回與フ、  
 但シ此ノ如キ多味ノ方劑ハ、英國ニ多ク、和蘭ニ  
 少レナリ、

蘆薈丁幾 蘆薈 一分 ヲ 亞尔箇児 六分ニ 浸出ス

ル者ナリ、毎服一汚乃至三汚、強下藥ニハ、一汚ヲ  
用フヘシ、但シ之ヲ用ルキハ、多量ノ亞尔箇児ヲ  
服セサルヲ得サルカ故ニ、称用シ難シトス、

複方蘆薈丁幾 蘆薈ニ没藥、泊夫蘭等ヲ加ヘテ、  
亞尔箇児ニ浸出スル者ナリ、毎服二汚日ニ数次、  
特ニ、經閉ノ便秘ヲ兼ル者ニ用テ良ナリ、

旃那 セニト、甸

旃那ハ強下藥中ノ一要品タリ、此藥ハ胃ヲ害ス  
ルト少ナキヲ以テ、吐逆等ヲ發スルト稀レナリ、

但シ多量ニ用レハ、動モスレハ、腹痛ヲ起シ、且ツ  
水様ノ便ヲ瀉ス、蓋シ此藥ハ腸粘膜ニ直達シテ、  
其分泌ヲ増盛シ、且ツ蠕動機ヲ奮起スルノ効アリ  
ルナリ、又此藥ハ尿ノ分泌ヲ増進スルノ効アリ、  
恐クハ血中ニ混入シ、腎藏ヲ刺衝スルニ由ル者  
ナラン、又通經ノ効アリ、故ニ柔弱ノ妊婦ニ用ル  
キハ、間流産ヲ起ストアリ、

主治及用法 旃那ハ腸管ヲ疏滌スル、効最モ  
偉ナルヲ以テ、諸般ノ急性熱病即チ肺炎、胸膜炎、  
痘瘡、麻疹等ノ便秘ニ称用ス、此等ノ症ニハ、塩類

下藥ヲ伍シ用テ殊ニ良驗アリ、或ハ稀レニ驅虫  
藥トメ用ルヲアリ、然レモ此藥ハ腹痛ヲ發ス  
ルノ弊アルヲ以テ、尋常ノ便秘ニ於テハ、蓖麻子  
油ヲ用ルノ無害ナルニ及カス、殊ニ胃潰瘍腸  
炎、赤痢、腹膜炎等ニ於テハ、妄リニ旃那ヲ用フヘ  
カラス、宜シク蓖麻子油ヲ與フヘシ、用法浸劑ト  
為ス、多シ、即チ二ツ乃至半ツヲ浸シテ、八ツノ  
液ヲ取ル、或ハ苳麻林度ヲ伍スルヲアリ、即チ苳  
麻林度六ツヲ煎シテ、八ツ或ハ十二ツノ液ヲ取  
リ、其中ニ旃那半ツヲ浸出シテ、毎二時一食匙ヲ

與フ、若シ尚其功カヲ強クセント欲スハ、更ニ芒  
硝若クハ、瀉利塩一ツヲ加フヘシ、又風氣痞滯ヲ  
兼ル者ニハ、此劑中ニ薄荷葉若クハ茴香一ツヲ  
浸出シテ之ヲ與フヘシ、又此劑トメ用ルヲアリ、  
即チ旃那末、酒石英、過泥子末、各一ツ、梅肉一ツ半  
砂糖若クハ、舍利別適宜ヲ和シ、毎服一食匙ヲ與  
フ、或ハ阿沒勒、苳麻林度、麻屈涅、失亞、無花果ノ類  
ヲ加ヘテ製スルモ可ナリ、尋常此等ノ浸劑ハ、妊  
婦ノ便秘ニ用ルヲ多シ、  
旃那丁幾、此劑ハ多量ニ用ロサレハ、効ナキヲ



ニ一回二回或ハ三回與フヘシ、小兒ニハ每服五  
六分ニテ足レリ、亦甘草ニ伍スルヲ妙トス

葯刺巴越幾斯 散末ニ比スレハ、其容少ナキヲ  
以テ服用ニ便ナリ、每服十分乃至十五分、

葯刺巴脂 越幾斯ニ比スレハ、其効最モ峻ニメ  
屢劇甚ノ腹痛ヲ發スルヲアリ、大抵二分乃至五

分ヲ用レハ、十分ノ水瀉ヲ起スニ足ル殊ニ丸ト  
為スヲ妙トス、

葯刺巴丁幾 每服一汚乃至二汚、多クハ他藥ニ  
配用ス、

刺蒺藜

ポドリウム

北亞米利加ニ産スル、一種ノ宿根草、ポドリウム、  
ペルタチムノ根ナリ、強下藥中ノ一優品ニメ、十  
分ノ量ヲ用レハ、必ス水瀉ヲ起ス、但シ葯刺巴ニ  
比スレハ、其効稍緩ニメ、腹痛及ヒ嘔吐ヲ發スル  
ヲ罕レナリ、總テ葯刺巴ヲ用フヘキ症ニ用テ可  
ナリ、每服一刃多クハ甘草、酒石英等ニ伍用ス、  
刺蒺藜比儂謨脂 刺蒺藜比儂謨根ニ含メル一種ノ  
華爾斯ニメ、之ヲ得ルノ法ハ、根ヲ亞爾箇兒ニ浸  
出シ、後テ水ヲ加ヘテ、沉澱セシムルナリ、尋常之

ヲ名ケテ剥<sup>ボ</sup>蕩<sup>ト</sup>比里<sup>リ</sup>涅<sup>ト</sup>曰<sup>フ</sup>、但<sup>シ</sup>剥<sup>ト</sup>蕩<sup>ト</sup>比里<sup>リ</sup>涅<sup>ト</sup>ノ  
ス、是<sup>レ</sup>共<sup>ニ</sup>規<sup>ル</sup>尼<sup>ニ</sup>涅<sup>ト</sup>、莫<sup>ク</sup>比<sup>レ</sup>涅<sup>ト</sup>ノ如<sup>ク</sup>、每<sup>日</sup>服<sup>ス</sup>四<sup>分</sup>一<sup>ノ</sup>乃<sup>キ</sup>、  
至<sup>一</sup>瓜<sup>丸</sup>、丸<sup>ト</sup>為<sup>シ</sup>臨<sup>臥</sup>ニ用<sup>レ</sup>ハ、翌<sup>日</sup>適<sup>宜</sup>ノ軟<sup>便</sup>  
ヲ通<sup>ス</sup>、尋<sup>常</sup>此<sup>藥</sup>ハ、連<sup>服</sup>スルモ習<sup>慣</sup>スル<sup>ト</sup>ナ<sup>キ</sup>  
ヲ以<sup>テ</sup>、其<sup>量</sup>ヲ漸<sup>加</sup>セサルモ、亦<sup>能</sup>ク奏<sup>効</sup>ス、又<sup>強</sup>  
下<sup>藥</sup>ニハ、每<sup>服</sup>一<sup>瓜</sup>乃至<sup>三</sup>瓜<sup>ヲ</sup>用<sup>フ</sup>ヘシ、若<sup>シ</sup>腹<sup>痛</sup>  
痛<sup>ヲ</sup>發<sup>シ</sup>易<sup>キ</sup>片<sup>ハ</sup>、莨<sup>菪</sup>越<sup>幾</sup>斯<sup>若</sup>クハ菲<sup>沃</sup>私<sup>越</sup>  
幾<sup>斯</sup>ヲ加<sup>ヘ</sup>テ、之<sup>ヲ</sup>防<sup>ク</sup>ヘシ、

### 塩類下藥

凡<sup>ソ</sup>亞<sup>尔</sup>加<sup>里</sup>塩<sup>類</sup>ハ、適<sup>量</sup>ヲ用<sup>レ</sup>ハ、滑<sup>便</sup>ヲ

通<sup>シ</sup>、多<sup>量</sup>ニ用<sup>レ</sup>ハ、水<sup>便</sup>ヲ瀉<sup>シ</sup>、乃<sup>チ</sup>強<sup>下</sup>藥  
ニ屬<sup>ス</sup>ル者多<sup>キ</sup>ニ居<sup>ル</sup>、盖<sup>シ</sup>此<sup>諸</sup>品<sup>ハ</sup>、單<sup>ニ</sup>  
腸<sup>粘</sup>膜<sup>ヲ</sup>刺<sup>衝</sup>シテ、其<sup>効</sup>ヲ致<sup>ス</sup>者ナ<sup>レ</sup>也、絶<sup>對</sup>  
テ腸<sup>炎</sup>等<sup>ヲ</sup>發<sup>ス</sup>ルノ弊<sup>アル</sup>トナ<sup>シ</sup>、而<sup>メ</sup>之<sup>ヲ</sup>  
用<sup>レ</sup>ハ、血<sup>中</sup>ニ吸<sup>攝</sup>セラル、<sup>ト</sup>容易<sup>ニ</sup>メ、  
少<sup>シ</sup>ク血<sup>行</sup>ヲ鎮<sup>靜</sup>スルノ効<sup>ヲ</sup>兼<sup>有</sup>ス、故<sup>ニ</sup>  
急<sup>性</sup>病<sup>ノ</sup>熱<sup>度</sup>亢<sup>盛</sup>スル者、即<sup>チ</sup>肺<sup>炎</sup>、胸<sup>膜</sup>炎、  
急<sup>性</sup>皮<sup>疹</sup>、腦<sup>室</sup>扶<sup>斯</sup>等<sup>ニ</sup>用<sup>ル</sup>ト多<sup>シ</sup>、即<sup>チ</sup>此<sup>等</sup>  
ノ症<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>、其<sup>脈</sup>實<sup>數</sup>ト為<sup>リ</sup>、便<sup>秘</sup>ヲ兼<sup>ル</sup>  
片<sup>ハ</sup>、之<sup>ヲ</sup>用<sup>テ</sup>最<sup>モ</sup>卓<sup>驗</sup>アリ、但<sup>シ</sup>腸<sup>患</sup>ヲ是

ム片ハ、蓖麻子油ヲ與ヘ、胆汁吐逆ヲ兼ル片  
ハ、甘汞、葯刺巴散ヲ用ルヲ優レリトス、又塩  
類下藥ハ、水腫及ヒ尋常ノ便秘ニ用ルト多  
シ、然レモ衰弱家ニ於テハ、可成的、蓖麻子油  
ヲ用ルヲ可トス、

硫酸麻偪涅失亜 ワグ子シ、ニルヲス、旬  
即瀉利塩

塩類下藥中ノ最良品ニメ、之ヲ用レハ、必ス水瀉  
ヲ發ス、而メ微ニ腹痛ヲ起ス、アレモ、腸炎ヲ發  
スルノ害ナシ、殊ニ熱病ノ便秘ニ用ルヲ適當ト  
ス、或ハ水腫ニ用ヒ、或ハ鉛中毒ノ便秘ニ用テ、共

ニ良効アリ、鉛中毒ニ用レハ、兼テ消毒ノ効アリ、  
是レ其鉛ヲ不溶解ノ硫酸鉛ニ變セ  
故ナリ、シムル通例半匁乃至一匁ヲ水四匁或ハ六匁ニ  
和シ用フ、常習便秘ノ如キハ、毎朝空心ニ用テ可  
ナリ、若シ用後不快ヲ覺ル者ニハ、少量ノ酒石酸  
里母奈堙若クハ拘櫟酸里母奈堙ヲ與フヘシ、此  
藥ハ尋常少量ヲ連服スル片ハ、其功劣弱ナルヲ  
以テ、一頓ニ多量ヲ用ルヲ可トス、他ノ塩類下藥  
モ亦皆ナリ  
若シ其効ヲ強クセント欲セハ、モ亦皆ナリ旃那ヲ伍スヘシ、  
即チ旃那一匁乃至半匁ヲ浸シテ、モ亦皆ナリ八匁ノ液ヲ取  
リ、硫酸麻偪涅失亜一匁ヲ和シ用フ、旃那ハ殊ニ  
腹痛ヲ發シ



易キ者ナレバ、硫酸麻屈涅失亜ヲ  
加レハ、大ニ之ヲ防クノ効アリ、又胃中ニ酸液  
ヲ醸シ、且ツ便秘スル者ニハ、硫酸麻屈涅失亜ニ  
炭酸麻屈涅失亜ヲ和シ用テ良驗アリ、其他灌腸  
藥トノ用ルニハ、硫酸麻屈涅失亜 一弓  
油一汚水八汚ヲ和スヘシ、  
護謨 半弓

枸橼酸麻屈涅失亜

マクシシートラチヌ旬

此藥ハ枸橼酸ヲ麻屈涅失亜ニ和シ、容易ニ製シ  
得ヘシト雖モ、溶液トメ用ルト最モ多シ、其方枸  
橼酸 一弓 水 四汚 = 溶カシ、其中ニ炭酸麻屈涅  
失亜 二弓 ヲ加ヘ、紙ヲ以テ漉過シ、強固ナル硝子

蠟ニ入レ、此蠟ハ大約十二汚ヲ容ルヘキ者ヲ用

舍利別ヲ含マシムヘシ、然ル後、炭酸加里 二弓 ヲ加ヘ、更ニ水

ヲ加テ、全量十二汚ト為シ貯フ、「キニル」及ヒ「鐵線

定スヘシ、此劑ハ佳快ノ酸味ヲ有シ、甚タ服用シ易シ、

故ニ夏時ニ於テ用ルト多シ、尋常六汚ヲ用レハ、

適宜ノ通利ヲ得ヘシ、若シ十分ノ効ヲ要スル片

ハ、十二汚ヲ一回ニ用テ可ナリ、又此劑ハ枸橼ノ

絞汁ヲ以テ製スルトアリ、

硫酸曹達

ソーヂー、シユルラス旬  
即芒硝

硫酸麻屈涅失亜ト略全効ナリ、然レモ彼ニ比ス

レハ、用ルル少シ、蓋シ曹達ハ血中ニ吸収セラル  
、一、殊ニ容易ニメ、單ニ下泄ヲ促ス為ニ要ナキ  
故ナリ、通常一弓乃至二弓ヲ水ニ和シ用フ、或ハ  
旃那、客麻、林度等ニ伍スルモ可ナリ、

硫酸加里

ポッターシ、ビタルトラス、  
即孕礬酒石

此品モ亦水瀉下藥ニ属ス、而メ過度ニ用レハ、屢  
危険ノ腸胃炎ヲ起シ、吐下止マサルコトアリ、故ニ  
瀉利塩芒硝等ニ比スレハ殊ニ少量ヲ用テ足レ  
リ、即チ緩下ノ効ヲ要スル片ハ、二弓ヲ用ヒ、強下  
ノ績ヲ望ム片ハ、半弓ヲ與フヘシ、而メ客麻、林度

ニ伍スルヲ最モ妙トス、

酒石酸加里

ポッターシ、タルトラス、  
甸

重酒石酸加里

ポッターシ、ビタルトラス、  
甸

二品中多クハ乙品ヲ撰用ス、是レ乙品ハ其効甲  
品ノ上ニ出ツレハナリ、二品共ニ大量ナレハ、水  
瀉ヲ起シ、少量ナレハ、微下利ヲ發ス、而メ乙品ハ  
血中ニ入り、炭酸加里ニ化スルカ故ニ、兼テ利尿  
ノ効アリ、大抵半弓乃至一弓ヲ常量トス、殊ニ水  
ニ溶カシ、橙皮、舍利別ヲ加ヘ用ルヲ良トス、或ハ  
他ノ下藥ヲ加テ、其効ヲ輔クルコトアリ、喻ヘハ藥

刺巴ヲ伍シテ、水腫ニ用ヒ、硫黄ヲ配シテ、痔疾ニ  
處スルカ如シ、通例痔疾ニ於テハ、此二藥各等分  
ヲ和メ散ト為シ、毎服一茶匙、日ニ五六回與フ、其  
他利尿藥即チ海葱等ニ伍用スルト多シ、

酒石酸加里曹達

ソーダ、エト、和ッダーシ、タトラス、旬  
即チ、鹼酒石

此藥ハ他ノ塩類下藥ニ比スレハ、其効最モ緩ナ  
ルヲ以テ、衰弱家ニ用ルト多シ、又血中ニ吸収セ  
ラル、片ハ少シク尿ノ分泌ヲ増進シ、其尿ヲメ  
亜尔加里性ニ變セシム、故ニ尿中ニ夥多ノ尿酸  
塩ヲ沉澱シ、或ハ尿酸塩ノ結石ヲ生シテ、其尿ニ

酸性反應ヲ現ハス者ニハ、之ヲ用テ屢良驗アリ、  
毎服ニク乃至一ク、一日數次、或ハ沸騰散トノ用  
ルトアリ、其法酒石酸加里曹達ニク重炭酸曹達  
ニ刃ヲ水三クニ溶カシ、酒石酸半クヲ加ヘ、沸騰  
ニ乘シテ服ス、尋常之ヲ「セードソツ」各地散ト名ク、  
清涼緩下ノ効アリ、

燐酸曹達

ソーダ、ホスラス、旬

此品ハ其効緩ニノ、其味不佳ナラス、故ニ婦人及  
ロ小兒ニ用ルト多シ、大人ニハ、半ク乃至一クヲ  
水四クニ和シ用ヒ、小兒ニハ一クヲ舍利別適宜

ニ和シ用フヘシ、殊ニ熱症ヲ兼ル者ニ用テ良驗アリ、

### 甘汞

ヒドラルヂリ、コロヂウム、ミテ句

甘汞ハ下藥中ノ要品ニメ、少量即チ一二ルヲ用レハ、緩下藥ト為リ、大量即チ五六乃至十ルヲ用レハ、強下藥ト為ル、而メ此藥ハ、甚タ服用シ易ク、腸胃炎ヲ發スル如キ弊害アルナシ、稀レニ此藥ヲ用テ、劇シキ腹痛ヲ發スルコトアルハ、其中ニ昇汞ヲ用テ、含メル故ナリ、宜シク純良ノ品ヲ撰用スヘシ、而メ其奏効ハ、甚タ速カナラス、大抵十ルヲ取り、藥刺巴ニ伍用スレハ、六時ヲ經ルノ後、始テ通下ヲ

得ヘシ、但シ或人ニ於テハ、尚速カニ効ヲ奏スルコトアリ、若シ之ヲ單用スレハ、其効最モ遲徐ニメ、日晡ニ用レハ、翌朝ニ至リ始テ下ヲ得ヘシ、故ニ此藥ハ必ス他ノ下藥ニ配用シ、以テ血中ニ混シ、流涎ヲ發スルノ害ヲ防クヘシ、又此藥ハ兼テ胆汁ノ分泌ヲ増進スルノ効アルカ故ニ、之ヲ用テ通池スル所ノ大便ハ、其中ニ含ノル胆汁ノ多少ニ從テ、或ハ黯黒色ヲ帶ヒ、或ハ綠黄色ヲ呈ス、

**主治及用法** 甘汞ハ防炎ノ効ヲ兼備スルヲ以テ、諸般ノ熱性病ニ於テ、下藥ヲ要スル時ハ、之ヲ

用ルヲ最モ適當トス、即チ腦炎、肺炎、胸膜炎、急性  
 眼病、急性虹彩炎、急性肝炎、發黃熱等ニ於ケルカ  
 如シ、又急性赤痢ニ用ルニアリ、蓋シ此症ニ在テ  
 ハ、胆汁ノ分泌必ス減少スル故ナリ、殊ニ其初起  
 ニ用テ良驗アリ、但シ初ハ、大量即チ十人ヲ頓服  
 セシメ、後ニハ一二人ノ少量ヲ取り、反覆ノ用フ  
 ヘシ、印度地方ニ於テ、流行スルカ如キ、急劇症ト  
 雖、此法ニ由テ治チ得ル者少ナカラスト  
 又急性腸炎及ヒ腹膜炎ニ用ルニアリ、此等ノ  
 症ニハ、阿芙蓉ヲ伍用シテ、最モ卓効アリ、即チ甘  
 承ニ人阿芙蓉四分人一チ一回ノ量ト為シ、日ニ

數回與フヘシ、又小児ノ熱性諸患即チ肺炎、腦炎、  
 腸炎等ニモ、之ヲ用テ屢効アリ、尋常大黃、葯刺巴  
 等ニ伍用ス、喻ヘハ甘承葯刺巴 各一人チ一包ト  
 為シ、日ニ六包ヲ與フルカ如シ、其他虎狼劑ニ稱  
 用スル者アリ、此症ハ尋常甚シキ吐瀉ヲ發スル  
 者ナレバ甘承ヲ用レハ、能ク血中ニ吸收シ、治愈  
 ノ後、大ニ流涎ヲ起スニアリ、

峻下藥

蘓甘沒扭謨 スカムモエカム、甸

一種蔓草ノ根ニ截間ヲ作り、其滲漏セル液汁ヲ

取テ、凝固セシムル者ニメ、多ク、齊里亞ニ産ス、此  
 品ハ下泄ノ効最モ強ク、屢腹痛ヲ起シ、過度ニ用  
 レハ、危険ノ腸炎ヲ幾スルコトアリ、故ニ單用スル  
 コトナク、多クハ格碌莖薦ニ伍用ス、服量ハ其品ノ  
 良否ニ隨テ差アリ、大抵上品ハ五匁、下品ハ一匁  
 ヲ用テ足レリ、但シ此藥ハ、雙品多クメ、時トメハ  
 詳ニ檢ヒサル、多クハ護謨及ヒ砂糖ヲ加ヘ、乳劑  
 ト為シ用フ、或ハ散ト為シ用ルコトアリ、即チ蕪甘  
 沒扭謨ニ分、藥刺巴三分、生姜一分ヲ和シ、復方蕪  
甘沒扭  
 謨散ト名ク、每服十匁、一日二三回、頑固ノ便秘及ヒ水

腫ニ用テ驗アリ、

蕪甘沒扭謨脂

此藥ハ蕪甘沒扭謨ヲ亞尔箇兒

ニ浸出シ、水ヲ加ヘ、沉澱セシメテ製ス、每服四匁  
 乃至八匁、小兒ニハ每服一匁、多クハ乳劑ト為シ  
 用ス、又乳汁ニ和スルキハ、其味全ク消スルカ故  
 ニ服シ易シ、

格碌莖薦

コロシナシス、匂

一種ノ瓜類ニメ、大升橙ノ如ク、味甚タ苦シ、故ニ  
 苦瓜ノ名アリ、種子及ヒ壞肉ヲ取り、藥用ニ供ス、  
 燻肉ハ其効之ヲ用レハ、必ス水様ノ下利ヲ起シ、  
 最モ峻ナリ

且ツ屢腹痛ヲ發シ或ハ血便ヲ下ストアリ、若シ  
極テ大量大約半多ヲ用レハ、瀕死ノ腸炎ヲ發スルコ  
アリ、多クハ頑固ノ便秘ニ用ス、又利水藥若クハ  
通經藥トメ用ルコトアリ、每服五匁乃至十匁散若  
クハ丸ト為シ用ス、但シ此藥ハ不佳ノ味アルヲ以テ丸ト為スヲ最モ妙トス  
或ハ浸劑トメ用ルコトアリ、即チ一匁ヲ浸シテ、六  
汚ノ液ヲ取り、茴香油糖半匁ヲ加ス、

格碌董蒿越幾斯 格碌董蒿ヲ亞爾箇兒ニ浸出  
シ、蒸散セシメテ數ス、每服一匁乃至五匁、但シ單  
用スルコト稀レニメ多クハ蘆薈、益智及ヒ石鹼ヲ

加ヘ用ス、所謂複方格碌董蒿越幾斯 若シ之ヲ用テ腹痛ヲ發  
シ易キ片ハ、輕キ麻酔藥菲沃斯越幾斯ノ類ヲ加フヘシ、

格碌董蒿丁幾 每服十滴乃至二十滴、日數次、  
蒲里阿尼亞 アリオニア、甸

是レ亦瓜ノ一種ニメ、根ヲ藥用トス、格碌董蒿ト  
全シク、水様ノ下利ヲ起シ、過度ナレハ下血及ヒ  
腸炎ヲ發スルコトアリ、每服十匁乃至一匁、丸ト為  
スヲ妙トス、或ハ新鮮ナル根ノ絞汁ヲ取り用ル  
コトアレハ、其効却テ劣弱ナリ、

黑藜蘆 ヘルレボリス、甸

此品ハ内用スレハ、水様ノ下利ヲ起シ、且ツ屢腹痛、嘔吐ヲ兼発ス、若シ大量ニ用レハ、劇甚ノ腸炎ヲ起シ、或ハ昏冒、搐搦ヲ發シテ死ニ抵ル者アリ、服量ハ十八乃至一匁、散若クハ丸ト為シ用フ、或ハ煎劑トノ用ルテアリ、即チ一匁ヲ煎シテ、八汚ノ液ヲ取り、毎二時一食匙ヲ與ス、但シ此藥ハ其効偉ナリト雖モ、其害亦大ナルヲ以テ、用ルテ殆ント罕レナリ、  
昔時ハ癩狂及ヒ他ノ神經症ニ称用セシテアリ

黑藜蘆丁幾

每服半汚乃至一汚、

藤黄

ガムボジク旬

藤黄樹ヨリ得ル所ノ一種ノ凝液ニメ多ク暹羅及ヒ交趾ニ産ス、峻下藥中ノ一良品ニシテ、少量ニ用レハ、適宜ノ水瀉ヲ起シ、大量ニ用レハ、大水瀉ヲ起シ、或ハ血液ヲ混泄シ、或ハ腸炎ヲ起シ、或ハ兼テ嘔吐ヲ發スルテアリ、余曾テ一患者ノ此藥一匁ヲ服シテ死セシ者ヲ見タリ、又此藥ハ、利水藥トメ水腫ニ用ルテ多シ、又通經ノ効、有スル、  
他ノ峻下藥ニ異ナラス、故ニ妊婦ニ用ルルハ、間墮胎セシムルテアリ、謹慎セサルヘカラス、用法毎服二匁乃至四匁、水腫等ニ於テ、峻効ヲ要ス



ルキハ、毎服十八乃至十二分ヲ與フハシ、但シ此  
等ノ峻下藥ハ、大量ヲ取テ、單用スレハ、間意外ノ  
弊害ヲ來タスヲアリ、故ニ他ノ下藥甘水、葯刺、巴  
類ニ配用スルヲ最モ可トム、喻ヘハ、頑固ノ便秘  
群ニ於テハ、藤黃、葯刺巴 各一分、一丸ト為シ、每  
服三四丸、日ニ三四回與フルカ如シ、

越刺的倭謨 エ、フ、リ、ム、旬

歐羅巴ノ南部ニ産スル、一種ノ瓜類ニ含メル者  
ニメ、之ヲ獲ルノ法ハ、其瓜ヲ絞搾シテ、液汁ヲ取  
リ、其中ニ生スル沉澱物ヲ集メテ、乾固ヒンムル

ナリ、此藥ハ、功力最モ峻劇ニシ、稍多量ニ用レハ、  
必ス大水瀉ヲ起ス、故ニ滲出液ノ吸収ヲ促ス為  
ニ用ルヲアリ、喻ヘハ、胸膜炎ノ滲出液及ヒ水腫  
病ニ於ケルカ如シ、但シ此藥ハ、大ニ衰弱ヲ來ム  
弊アルヲ以テ、決シテ連用スヘカラズ、宜シク二  
三日毎ニ用フヘシ、衰弱家ニハ、此等ノ藥ヲ用ヒサルヲ可トス亦此藥  
ハ、其製ノ純否ニ從テ、大ニ其功ヲ異ニスルカ故  
ニ、預メ其量ヲ定メ難シ、故ニ初回ハ、必ス少量ヲ  
與ヘ、其害ナキヲ見テ、漸ク増量スルヲ可トス、即  
今、毎二時六分、一乃至四分、一ヲ與ヘ、効ナキ

片ハ、每服二片ヲ用ルニ至ルヘシ、或ハ十片ヲ用

レ、氏、斯ノ如キ量ヲ用シヨリ寧  
口他藥ヲ撰用スルヲ優レリトス、

越刺多力涅 越刺的倭護ノ切分ナリ、其功カ常

ニ均一ナルヲ以テ、用量ヲ規定スルニ最モ便ト

ス、每服十二分ハ一乃至六分ハ一尋常一ハナ要

尔箇鬼一汚ニ溶カシ、硝酸四滴ヲ加ハテ、每服三

十滴或ハ四十滴ヲ與フ、但シ冷水ニ和服セシム

ヘシ、硝酸ヲ加フル所以ハ、水ニ溶  
和シ、易カラシメシカ為ナリ、

巴豆油 オレユム、チ、グリ、

巴豆油ハ巴豆ヲ絞搾シテ獲ル所ノ固性油ニシ、

常用峻下藥中ノ最峻ナル者ナリ、之ヲ皮膚ニ貼

スレハ、直チニ其部ヲ刺戟シテ、皮炎ヲ發ス、故ニ

引赤藥トノ用ルヲ多シ、内用スレハ、一時ヲ経ル

ノ後、夥多ノ水便ヲ瀉ス、若シ過度ニ用レハ、劇シ

キ内臓炎ヲ起シ腹痛甚シク、瀉下止マズ、遂ニ大

虚脱ヲ發シテ斃ル、曾テ一醫アリ誤テ巴豆油一

命ヲ害セシト云フ、然レ氏謹慎シテ用ルルハ、其功ノ大ナ

片、實ニ他ノ峻下藥ニ超乘スト謂フヘシ、

主治及用法 頑固ノ便秘ニテ、諸藥効ナキハ、

之ヲ用テ必ス効アリ又頭部ノ病患ヲ腸ニ誘導

スル為ニ用ルヲアリ、喻ヘハ腦炎卒中等ニ於ケルカ如シ、又水腫及ヒ神經痛、膀胱痛等ニ用ルヲアリ、但シ腸潰瘍、腹膜炎等ヲ兼ル者ニハ、決メ用フヘカラス、服量ハ一滴ニテ足レリ、或ハ稀ニ二三滴ヲ要スル者アリ、ア通例一片ノ蒸餾中ニ滴シ、丸ト為メ吞下セシム、或ハ糖一匁ニ和シ、或ハ蓖麻子油半匁ニ混シ用レモ可ナリ、又他藥ヲ加ヘ、丸ト為シ用ルヲアリ、

巴豆下幾

巴豆ヲ亞爾箇兒ニ浸出スル者ニシテ、巴豆油ニ比スレハ、殊ニ服用シ易シ、大抵此下幾

六滴ハ巴豆油一滴ニ匹敵ス、又巴豆油ヲ以テ下幾ヲ製スルヲアリ、即チ一滴ヲ亞爾箇兒半匁ニ和シ、適宜ノ砂糖ヲ加ヘ用フ、

附

灌腸法

爰ニ附説スル所ノ灌腸法ハ、概子皆ナ大便ノ通池ヲ促スノ効アル者ナリ、故ニ下藥ヲ内用シ難キ者ニハ、症ニ隨テ之ヲ應用スヘシ、殊ニ胃病ノ嘔吐ヲ發シ易キ者、及ヒ腸ノ下部ニ燥屎積積スル者ノ如キハ、灌腸法ヲ施スヲ最モ

妙トス、燥屎ハ尋常大腸珠ニ盲腸及ヒS字状部ニ鬱積シ易シ、而メS字状部ニ鬱積スルキハ、其燥屎屢非常ニ硬固ト為テ、其壁ニ附着シ、下藥ヲ内用シテ、泄瀉ヲ起サシムルモ、容易ニ轉脱セサルコトアリ、此ノ如キハ、灌腸法ヲ施シテ始テ効アリ、但シ時トノハ、灌腸法ヲ施スモヲ得サル又急劇ノ諸患ニ於テ、下藥ノ即効ヲ要スルキハ、此法ヲ行フヲ最モ可トス、喩ヘハ頭部ノ打撲或ハ卒中等ニ由テ、人事不省ト為ル者ニ於ケルカ如シ、又籍頸腸墜ノ症ニ於テ

頑固ノ便秘ヲ起ス者、或ハ常痺便秘ニ於テ、下藥ヲ内服スルモ効ナキ者ニハ、之ヲ施スヲ無比ノ良法トス、其他嬰兒ニ於テ、大便ノ通利ヲ要スルキハ、下藥ヲ用ルヨリ灌腸法ヲ施スヲ優レリトス、又灌腸法ニ代用スヘキ一法アリ、即チ石鹼ヲ削リテ棒状ト為ス者、或ハ大ナル紙捻子ニ油ヲ塗リ、之ヲ肛門ニ挿入スルキハ、其器械的刺衝ニ由テ、通下ヲ促スノ効アリ、灌腸法ハ數種アリ、左ニ其藥畧ヲ舉ク、  
草灌腸法 食塩、油、舍利別 各一食匙ヲ水十二

汚ニ和シ、一回ノ用ニ供ス、或ハ油水ノ混和ヲ助クル為ニ、適宜ノ石鹼ヲ加フルトアリ、又全量ノ水ニ蜜ト油ヲ加ヘ用ルモ可ナリ、  
油類灌腸法 直腸ノ過敏ナル者即チ直腸潰瘍等ニ於テ之ヲ要スルト多シ、其劑ノ量ハ二汚乃至四汚ニテ足レリ、  
護謨 一汚水 三汚ヲ和スル者ノ如シ、或ハ阿列布油 一汚布油ニ代ルニ、亞麻仁油、甘扁桃油等ヲ以テスルトアリ、若シ強効ヲ要スルキハ、全量ノ蓖麻子油ヲ以テ、阿列布油ニ代フヘシ、

塩類灌腸法 硫酸曹達若クハ硫酸麻屈涅失亞 二汚ヲ水 十二汚ニ和シ用フ、若シ其功カヲ増サント欲ヒハ、旃那 一汚ヲ浸シテ十二汚ノ液ヲ取り、之ニ硫酸曹達若クハ硫酸麻屈涅失亞 一汚ヲ加ヘ用フヘシ、  
強下灌腸法 藥刺巴 二汚護謨 一汚水 十二汚ヲ和ス、又方蘆薈 半汚ヲ水 十二汚ニ和ス、此方ハ亦通經灌腸法ニ供スルトアリ、又蘇甘沒紐謨 一汚ヲ水 十二汚ニ和シ用ルトアリ、  
驅風灌腸法 腸胃中ニ風氣痞滯スル者ニハ

之ヲ行チ良驗アリ、其方的列並油一汚護護ニ  
ヲ水六汚ヲ和ス、或ハ阿魏一ヲヲ水六汚ニ和  
シ用ルモ可ナリ、此等ノ灌腸法ハ亦蟻虫ヲ驅  
除スル為ニ用ルヲ多シ、

灌腸法一般ノ功用ハ、既ニ藥物總論ニ於テ  
詳述セリ、且シク參照スヘシ、

增補藥物學卷十五終

明治十一年十一月十四日 版權免許  
同 十二月 出版 定價拾八錢六厘

翻譯者 故人三 瀨 諸 君  
愛媛縣士族

增補出版人 從 六位 高橋 正 純  
大阪府士族  
故大阪病院內寄留

製本所 大阪本町四丁目  
書 藉 會 社  
第貳版三小區若松町寄地住

